

人権教育に関する特色ある実践事例

基準の観点

個別の人権課題をテーマとして効果的に取り扱った実践事例

1. 基本情報

○都道府県名及び市町村名

和歌山県 串本町

○学校名

串本町立串本中学校

○学校のURL

なし

2. 学校紹介

○学級数

【通常の学級】1年生3学級、2・3年生2学級 【合計】7学級

○児童生徒数

【全児童数】202人

(内訳：1年生78人、2年生68人、3年生56人)

○学校の教育目標、人権教育に関する目標など

【学校教育目標】

自己実現の喜びを味わえる生徒の育成（H23）

心豊かで逞しく、主体的に生きる生徒の育成（H24変更）

【人権教育の目標】

一人一人が互いの人権を尊重し、認め合い、日常生活の中の矛盾や不合理を解決していける判断力と実践力を育成する。

○人権教育にかかる取組の全体概要

○人権学習の充実

- ・すべての学習活動を通じて、生徒一人一人の自尊感情を高めさせる。
- ・教科等の学習を通じて、人権問題について知るとともに、科学的なものの見方、考え方を育てる。
- ・特別活動を通じてお互いの良さを認め合い、仲間はずれやいじめのない集団づくりを進める。
- ・総合的な学習の時間や特別活動を通じて、身近な人権問題について認識を深めさせるとともに課題解決のための実践的な態度を育てる。
- ・道徳の時間を通じて人権尊重の精神を育てる。
- ・基礎学力の定着を図るとともに、生徒一人一人の自己実現を支援する。

○地域に開かれた学校づくりの推進

- ・HPや学級便り、学校便り等を活用し学校の情報を広報する。
- ・外部講師等地域の教育力を活用し指導の充実を図る。

○校内研修の充実

- ・生徒の実態や課題について共通理解を図る。

- ・具体的な人権問題を学び、教職員の人権意識の高揚に努める。
- ・人権教育の指導方法の工夫改善を図る。

3. 特色ある実践事例の内容

【学習活動の点検・見直し】

取組の目的

これまで取り組んできた学習活動を見直し、指導内容の構成や教材の選定など指導方法の創意工夫を行うことで人権教育の学習の効果を高める。

- ・取組をはじめたきっかけ

これまで高齢者福祉施設を訪問し、介護福祉の体験活動や串本節の合唱、合奏、踊りの披露などの交流活動に取り組んできた。毎年、生徒の施設訪問は入所されている高齢者から快く受け入れられ、生徒も、この学習を通じて達成感や充実感を抱きながら高齢者問題や福祉について考える良い機会となっていた。こうした体験活動を生かし、さらに、高齢者の人権に関わって社会に存在する不合理な問題や、高齢者が生活する上で困難な状況など、具体的な人権課題の現状についてより理解を深めさせ、人権擁護の実践に結びつけることができるよう指導方法等の見直しを行った。

取組の内容

《指導内容の構成》

これまで実施していた高齢者福祉施設の訪問の活動を第1次に位置付け、高齢者の人権に関わる現状や課題等に関する知識理解に関わる内容を第2次に、第1・2次で学習した内容を基盤として、高齢者の人権が尊重される社会づくりにつながる行動力の育成をめざした活動を第3次にそれぞれ位置付け学習單元化を図った。

《自主性を尊重した指導方法の工夫》

生徒が課題意識をもって自ら考え、主体的に判断する力や実践的に行動する力を育成するため、グループによる話し合い活動や発表の機会を設定するなど、互いが学び合う活動等を取り入れた。

《感性に訴える教材の活用》

生徒の関心を高め、学習効果を向上させることが可能となるよう選定した教材を取り入れた。

※「全国中学生人権作文コンテスト」の作品の中から、同世代の生徒の人権作文を教材化

開発した学習単元**共に生きる地域社会をめざして**

対象学年：中学校1学年

単元目標

- 1 高齢者の人権問題について科学的な認識を深め、多くの仲間と共に解決に向けて取り組もうとする態度を育てる。

単元の流れ

	次目標及び学習内容	時間数	取り扱う時間
第1次	<p>高齢者福祉施設の訪問</p> <p>○介護福祉体験等をとおして、高齢者が生活する上で困っていることや不便に感じていることを理解する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の高齢者福祉施設を訪問し、高齢者介護等の福祉体験及び串本節の合奏等を披露し、高齢者と交流する。 	4時間	総合的な学習の時間
第2次	<p>高齢者の現状について</p> <p>○高齢者が生活していく上での様々な問題について理解を深める。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ゲストティーチャー（高齢者施設や社会福祉協議会の職員の方）から、認知症の症状や高齢者が抱える様々な問題について学習する。 ・『高齢社会白書』（内閣府）から、高齢者の「振り込め詐欺」の被害状況、「消費トラブル」の相談件数、「高齢運転者による交通事故件数」「高齢者の自殺」の状況等について、その現状を学習する。 	2時間	総合的な学習の時間
第3次	<p>共に生きる地域社会をめざして</p> <p>○地域社会の一員として、高齢者の抱える問題の解決に向けて取り組もうとする。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・高齢者の抱える問題を解決するための具体的な諸施策等について調べ学習をする。 ・読み物資料を読んで、高齢者の抱える様々な問題と向き合い、今後、地域社会の一員として自分たちにできることを考える。 	2時間	総合的な学習の時間

第3次 共に生きる地域社会を目指して

目標

- 地域社会の一員として、高齢者の抱える問題の解決に向けて取り組もうとする。

準備物

- ・資料③「※同世代の生徒の人権作文」
- ・ワークシート③「地域社会の一員として」

展開		
学習活動	支援及び留意点	評価規準
<p>1 グループごとに調べた内容を発表する。</p>	<p>・必要に応じ『高齢社会白書』を配付し、諸施策を調べさせる。</p> <p>・課題解決のため、様々な行政施策が講じられていることに留意させる。</p>	
<p>課題解決のための諸施策</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ 「買い物弱者（買い物難民）」への生活支援 ■ シルバー人材活用の支援 ■ 振り込め詐欺や悪質商法による被害防止のための広報啓発活動 		
<p>2 資料③を読み、感想や気づいたことをグループで話し合い、ワークシート③にまとめ発表する。</p> <p>3 地域社会の一員として自分たちがこれから取り組んでいけることについてグループで話し合い、ワークシート③に記入し発表する。</p>	<p>・地域の現状等について必要な説明を加える。</p> <p>・今の自分たち、将来の自分たちに具体的にできることを考えさせる。</p>	<p>自分たちにできることや取り組んでいきたいことを考え、発表しようとしている。</p> <p>【価値態度】</p>
<p>自分たちにできること</p> <ul style="list-style-type: none"> ■ もっと高齢者の生活や問題等について知ること。 ■ 介護や福祉の制度等について調べること。 ■ 調べたことを文化祭などで地域に発信すること。 ■ 日常生活において高齢者と積極的に交流を図ること。 ■ 高齢者が参加する地域の行事に積極的に参加すること。 		

4. 実践事例の実績、実施による効果

人権教育の指導方法としては体験活動や交流活動は有効であると捉えられるが、「人権教育の具体的な目標」の達成という観点でこれまでの取組に事後指導を加えることにより、学習活動を充実させることができた。

また、生徒の主体性を引き出す活動を取り入れたことにより、生徒が学習内容を受け身に捉えるのではなく、自らの意欲や関心を高めつつ、能動的に学習を深めていけるものと期待している。

5. 実践事例についての評価

今回、指導計画（全体計画、年間指導計画組）や学習活動の見直しを学校全体の組織的な取組として実施したことで、人権教育の充実を図ることができた。また、学校全体で取り組んだことにより、人権教育の役割や各教科等での学習をはじめとする様々な教育活動と人権教育との関わりについて共通理解を図ることができた。

【 人権教育の指導方法等に関する調査研究会議によるコメント 】

串本町立串本中学校

重要人権課題の一つである高齢者の人権をテーマとする取組の事例である。高齢者福祉施設等の訪問・体験学習は広く行われているが、この事例では、施設訪問体験にとどめず、それを受けて、高齢者の人権に関わる現状や課題等に関する知識理解を深める学習が行われている。その学習内容を基盤として、さらに高齢者の人権が尊重される社会づくりにつながる行動力の育成をめざす活動も組み入れている。以上の3段階の学習を包括する学習単元を構成・実施している点が大きな特徴である。生徒が自ら考え、主体的に判断し、実践的に行動する力を育成するための指導方法の工夫や、学習効果を向上させるために「全国中学生人権作文コンテスト」の作品を教材化する工夫など、人権教育の内容・指導方法の改善の努力も認められる。『高齢社会白書』を使い、「振り込め詐欺」の被害状況、高齢運転者による交通事故問題、高齢者自殺の状況等々の学習、高齢者が抱える問題を解決するために具体的な諸施策について調べる学習等により、高齢者の抱える問題解決に向けて取り組む姿勢は、人権実現のための実践行動力を高めるといふ人権教育の目的からみて示唆に富む。